

大切なあなたへ

金山中学校 三年 井戸 啓人

みなさんは親を大切にしているだろうか。「大切にしている。」という人もいれば、「反抗期中。」という人もいるだろう。その他もあるかもしれない。しかし、正直どれでもいい。重要なのは、親が活着しているうちに大切にすることだ。幸せといえる家族になるよう助け合うことだ。僕自身も、きっぱりと「大切にしている」とは言い難い。しかし、特に母を大切にしようと努力しているつもりだ。

小学生の頃、父を病気で亡くした。父をずっとそばで看病していた母は憔悴しきっていた。それでも、葬儀の時には、「自分がしっかりしなければ。」と気丈に振舞っていた。一家の大黒柱だった父を亡くし生活は一変した。いわゆる「ひとり親」となった。母はパートの仕事をしている。時々本当に疲れて帰ってくる日もある。しかしどんなに辛くても、父に代わって一家を支えるため、一生懸命働いているのだと思う。

兄は離れて暮らしているが、よく母が手作りの唐揚げを持っていたり、兄の好きなものを買って送ったりしている。僕は母と住んでいるのでいつも支えてもらっている。例えば、遠い岐阜で行われる陸上大会の送り迎え。温かくおいしいご飯。おめでたい日のプレゼント。他にも挙げればきりがなが、いつも文句を言わずに支えてくれている。だからお返しに、足腰のマッサージ、布団敷き、食器洗いなど、僕ができることをしながら元気に過ごしている。助け合って活着しているのだから、僕は毎日楽しい。ふと、父がいなくて寂しく思う時もある。でも、もう前には進めていると自分では思っている。

しかし、ある日次のような記事をインターネットで見ってしまった。みなさんは「片親パン」という言葉を聞いたことがあるだろうか。「片親パン」というのは、若い世代が生んだネット用語で、「母子家庭や父子家庭の子供が、いつも与えられていそうな安価で量が多いパン」のことをさす。それが話題になっているのを目にしたのだ。ひとり親の子は、料理を作ってもらえず、パンだけ与えられるかわいそうな子。そんなイメージを抱いている人が一定数存在するということだ。「なんだこれは。実際に体験したわけでもないのに。」僕はこの記事を読んで憤りを覚えた。僕の母は、どんなに忙しくても、朝早くてもご飯をしっかり作ってくれる。食事で寂しい思いをしたことはない。ひとり親世帯を理解してくれている人もいる。その人たちにも失礼だ。

たしかに、ひとり親世帯の貧困が、ニュースに取り上げられることもある。しかし、今は国などからの支援が充実してきている。給付金、医療費の無償化など、「ひとり親世帯を救いたい」という温かさが伝わってきてうれしい。

「ひとり親世帯」に対する「かわいそう」という偏見は、今だ解決できていないのが現状だ。僕はそんな人たちに伝えたいことがある。家族の形の違いが、本当に幸か不幸かを決める決定打なのかと。僕たち家族は助け合っている。そして母は僕の誇りだ。うちは特殊でかわいそうは家族じゃない。普通の家族だ。ただそれを理解してほしい。

親は偉大だ。そして、いつかはなくなってしまう。だからこそ今を大切にすべきだ。

自分自身ができることは少ないかもしれない。しかし、あなたを育ててくれた人や大切な人と接していられる時間は無限ではない。今のうちに感謝を伝えてはどうだろう。物を贈ったりしなくても、あなたの気持ちはきっと届くだろう。家族の形にとらわれないでほしい。大切なのはお互いを思いやり助け合うこと。そして、自分から家族を大切にすること。それが幸せへの第一歩なのだから。